

六月十二日 大阪毎日新聞記事

對峙する會社と爭議團 因島の爭議

備後因島の労働爭議につき、爭議團では十日午後土生町大正座で演説會を開き八日の衝突事件における發言官の横暴と會社の不誠意を絶叫し廿餘名の出演者中十名は中止を命ぜられ千三百餘名の入場者は喧騒を極めた。而して同夜職長等は第四回の調停案を提示して、爭議團に始つたが不調に終つた揚句豫て解決の衝に當らんとして、ある土生町有志に對し工場方面には此際都合上仲裁の勞を見合せて貰ひたいと申込んだことが、爭議團に傳はり、爭議團では其夜一時半頃團員の非常招集を行ひ幹部は職長生命を懸して、職長をばらばらと激勵して解散した。尙職長の調停案は

- (一) 解雇者に通算二分目以上の同情金を給り、(二) 其の再會費給與金は八割支給の事、(三) 日給五分増加の事、(四) 夏季時期に、(五) 休業期間中の日給五分支給の事

といふので會社が之を容るゝや否や疑問があるが職工側では爭議團を離れた處に交渉委員を挙げて折衝することになり二十一日協議を遂げた。

六月十二日 大阪朝日新聞記事

新に調印を取る對峙の因島爭議

大阪鐵工所因島及び三庄工場の爭議は勞資の調停行場み爭議は勃發當時より一層險悪な状態となり警察の警戒はますます嚴重となるばかりで土生三庄兩町民は二十日以上の爭議に物資にも窮迫し極度の不安に襲はれてゐるが勞資双方とも強硬な對峙して何時解決の日を見らる前途暗澹たるものがある職工側では十一日再び結束を固める爲め無條件従業するものを除き爭議を續けるもの一千名の調印を新たに取つて廻つた。

六月十三日 大阪毎日新聞記事